

農業問題

問 人・農地プラン作成の進捗状況は

答 プランの地域的まとまりの策定段階



篠崎 久美子 議員

〔人・農地プランについて〕

問 当村の抱える農業の問題点は。

村長 農業者の高齢化、後継者不足に伴う耕作不能地の増加や、鳥獣被害による山間部での耕作放棄地の増加米価低迷により米に代わる農作物生産の必要性があります。

問 プラン作成状況は。

村長 すでに調査を終えており、プラン取り組みの地域的範囲については6月の農業再生協議会で決定し、その後、話し合いで原案作成、エリアごとの検討会を実施する予定です。

る予定です。

問 農地集約と遊休農地解消はどの程度進む予定か。

村長 プラン作成前の現段階では、まだ見込みが立たない状況です。

問 プラン作成による農業6次産業化(*)の推進は。

村長 プランに取り組みするための施設整備等の支援を考えているところで、6次産業化への取り組みを推進したいと考えます。

問 過去の1村1農場構想の営業者との兼ね合いは。

村長 原案の段階で考えていきたいと思っています。

問 地域検討会への女性の参加方法は。

村長 検討中で、JAなどと相談しながら、と考えています。

〔買い物弱者〕

生活弱者について

村内の状況把握は。

村長 高齢者福祉計画策定の経過の段階で、関係者から意見を聞いています。

問 安全安心のために民間業者との提携を模索してはどうか。

村長 現在のサービスのほかに、新聞販売店や郵便局などとの業務提携が考えられ、前向きにすすめることを指示しています。

問 福祉専門職の配置を検討されていますか。

村長 現在の専門職のほかに、社会福祉士などの充実をしたいと思います。慎重に検討してまいります。

〔振興公社事業について〕

問 夢白馬と地場産コーナーの充実策は。

村長 そばガレットの常時提供、姉妹都市特産品の販売、村内観光関連業者対象の特産品展示会の開催、PRの充実や北アルプス山麓ブランド促進イベントへの積極的参加を考えています。地場産販売コーナーは季節ごとに柔

軟に対応し、加工品の「おやき」「おかき」の定番特産品を軌道に乗せたいと思います。

問 観光農政課や観光局との連携は。

村長 連携の1つである白馬駅前観光案内所は、観光局の移転と合わせ、そのあり方を検討したいと考えます。

問 一般財団法人化の予定は。

村長 今年度中に一般財団法人化への移行認可申請をし、来年4月1日から新法人として事業開始の予定です。

(*)6次産業化：農産物の生産、加工、販売サービスを一体的に産業化すること。



商品化が期待される白馬の大豆 7月24日